

社団法人 日本非破壊検査協会  
平成23年度事業計画

本協会は、非破壊試験に関する調査・研究を行う学術活動を母体として、非破壊試験技術者の教育活動及び認証活動並びに関連規格等の標準化活動などに積極的に取り組んでいく。

懸案事項となっていた新公益法人制度施行に伴う一般社団法人への移行については、定款変更につき主要規則の改正を行い、来年4月の登記を目標に作業を進める。

学術活動では、昨年度からスタートした、要素技術8部門及び応用技術4部門における活動の活性化を推進する。春秋の学術講演会をより充実したものとするため、各部門・研究会によるオーガナイズドセッションを構成し、研究活動の拡大と活性化を図る。技術開発センターにおいては、実機模擬 SCC(応力腐食割れ)試験体を製作し、回送実験を実施して種々の探傷方法の検証を行う。

国際的には、ICNDT PGP 会議、ASNT 年次大会などへ協会代表を必要に応じて派遣し、海外との交流を深めるとともに情報収集を図る。一方、友好協定締結国及び各国の非破壊検査関連学協会とも交流を深め、特にアジア諸国においては、意見交換・連携強化に努め、その主導的役割を担っていく。また、2012 年秋に横浜で開催予定の「第3回レーザ超音波及び先進計測に関する国際シンポジウム (LU2021) の準備活動を推進する。

毎月発行している機関誌においては、学術論文、特集企画、連載講座、解説記事など充実させると同時に、現場の非破壊試験技術者に有益な情報を提供することに努める。また、論文投稿者の便宜と論文審査の効率化を目的として、電子投稿・審査システムの導入を推進する。

非破壊試験技術者の認証事業では、JIS Z 2305:2001 (非破壊試験—技術者の資格及び認証) に基づく認証のさらなる充実を図るとともに、社会の安全を担う技術者の技量の向上に貢献するように努める。また、非破壊試験技術を総合的に評価する技術者認証を、NDIS 0602:2003 (非破壊検査総合管理技術者の認証) に基づいて実施し、原子力発電所の検査において要求される PD 技術者に関して、PD 認証機関として NDIS 0603:2005(超音波探傷試験システムの性能実証における技術者の資格及び認証) に基づく認証を行う。今年度は、新たに赤外線サーモグラフィ技術者の認証を開始し、さらには漏れ試験などの技術分野に対しても認証の検討を進める。国際的には、海外の認証制度との相互承認に向けた活動を推進し、すでに実施している BINDT との PED NDT 承認に加えて、ASNT-ACCP-PCP による ACCP 資格取得制度を確立するなどを考慮し、最新版の ISO9712 に整合した JIS の見直しの検討を行う。

教育活動では、JIS Z 2305 に規定される教育訓練を行う他、BOK(Body of Knowledge:必要な一連の知識)に基づいた教育訓練カリキュラムの見直し、講師及び指導員の育成プログラムの検討を行う。また、非破壊試験技術の啓蒙のために技術セミナーを企画し実施する。

出版事業では、各種非破壊試験技術に関する参考書、解説書などを発行し、必要に応じて新版書籍の刊行及び既刊書籍の改訂に努める。また各種試験技術に関わる標準試験片などに関しては、遅滞なく頒布・供給できる体制を構築し、その品質管理にも十分な施策を講じる。

標準化活動では、経済産業省、日本規格協会及び関係学協会と緊密に連携し、日本非破壊検査協会規格 (NDIS) 及び非破壊試験に関連する JIS の制定、改正及び見直しに積極的に取り組む。ISO 規格については、ISO/TC 135 (非破壊試験) の国内審議団体として、国際規格案の審議に積極的に参加し、日本の意見を反映させていく。また、ISO/TC 135 幹事国として TC 全体の活性化を図るためのマネジメントに注力し、また ISO/TC 135/SC 6 (漏れ試験) の幹事国として、加盟諸国と連携を保ちながら国際規格の整備に努める。

広報活動では、イメージキャラクターの「ノンディ」などを幅広く広報媒体に活用して、非破壊検査の普及と存在意義の浸透を図る。また、次世代を担う若年層に対し、非破壊検査に関する興味・関心を喚起するための広報活動を企画し実施する。

以上の諸活動を行うにあたり、本協会の財政的な健全性を維持しつつ、会員サービスの向上に努める。

## 1. 第 68 回通常総会

日時：平成 23 年 5 月 26 日（木）

会場：アルカディア市ヶ谷

議題：

- (1)平成 22 年度事業報告の件
- (2)平成 22 年度収支決算報告の件
- (3)監事の辞任に伴う後任監事選任の件
- (4)監査報告の件
- (5)平成 23・24 年度理事選任の件
- (6)平成 23 年度副会長及び会務担当者選任の件
- (7)平成 23 年度事業計画の件
- (8)平成 23 年度収支予算の件
- (9)新公益法人制度における特例民法法人から一般社団法人への移行の件
- (10)一般社団法人への移行に伴う定款変更及び主要規則の改正・制定の件
- (11)一般社団法人への移行に伴う公益目的支出計画の実施の件
- (12)一般社団法人への移行に備えた事前措置の件

## 2. 評議員会

日時：平成 23 年 5 月 25 日（水）

会場：アルカディア市ヶ谷

議題：

- (1)平成 22 年度事業報告の件
- (2)平成 22 年度収支決算報告の件
- (3)監事の辞任に伴う後任監事選任の件
- (4)監査報告の件
- (5)平成 23・24 年度理事選任の件
- (6)平成 23 年度副会長及び会務担当者選任の件
- (7)平成 23 年度事業計画の件
- (8)平成 23 年度収支予算の件
- (9)名誉会員推薦の件
- (10)協会賞の件
- (11)新公益法人制度における特例民法法人から一般社団法人への移行の件
- (12)一般社団法人への移行に伴う定款変更及び主要規則の改正・制定の件
- (13)一般社団法人への移行に伴う公益目的支出計画の実施の件
- (14)一般社団法人への移行に備えた事前措置の件

## 3. 役員会

### 3. 1 理事会

定款の定めに従い、協会の運営に関わる諸案件の審議・決議を行うために、年 7～8 回程度の定例理事会を開催する。

### 3. 2 運営委員会

理事会の円滑な運営を図るとともに、重要かつ緊急を要する課題の検討を行うために年 7～8 回程度開催する。

## 4. 将来構想委員会

協会の運営に関わる全体戦略の検討、及び中長期運営全体戦略の企画立案を行う。

## 5. 選挙管理委員会

平成 24・25 年度 会長、監事、理事などの選挙を実施する。

## 6. 安全衛生管理委員会

講習会、資格試験等の準備・実施時における受講者、受験者及び主催者の健康と安全を保てる環境を整備・確保し、事故・災害の未然防止に努める。

## 7. 学術活動

非破壊検査技術全般の進歩発展及び社会貢献を基本理念に掲げ、学術活動の活性化（研究の推進）、会員のための学術活動の推進及び社会への情報発信を基本方針とし、次の活動を行う。

### 7. 1 学術委員会

- (1)学術活動全般を総括し、年間行事予定の調整を行う。
- (2)学術活動の円滑な推進を目的に諸規則の見直しを検討する。
- (3)学術委員会起案の学術セミナーを計画する。
- (4)充実した講演大会の開催を目的として、各部門・研究会による、オーガナイズドセッションを計画する。
- (5)学術組織の活動が円滑に行われるように配慮する。

### 7. 2 部門

#### 7.2.1 放射線部門

放射線による試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の各研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)中性子イメージング研究委員会

国内の中性子イメージング研究者間の情報交流を促し、もって中性子イメージングの非破壊検査への適用を推進する。

##### (2)デジタルラジオグラフィ研究委員会

デジタル画像化技術を用いた放射線検査技術の研究、デジタルラジオグラフィの利用を促進するための規格の制定、情報交換、普及活動を行う。

#### 7.2.2 超音波部門

超音波による試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の各研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)超音波試験機器研究委員会

超音波探傷機器の普及と技術的な理解の推進に必要な標準化や特性評価等の調査研究を行う。

##### (2)接合部の超音波探傷研究委員会

鋼溶接部をはじめとするあらゆる材料の接合部を対象とした超音波探傷に関する研究を行う。

##### (3)フェーズドアレイ超音波探傷研究委員会

フェーズドアレイ超音波探傷が抱えるハードウェア及びソフトウェアに関する課題を中長期的視点から見出し、その解決にあたる。

#### 7.2.3 磁粉・浸透・目視部門

磁粉、浸透及び目視による試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)磁粉探傷研究委員会

磁粉探傷試験の各磁化状況における標準試験片の特性評価と数値解析による現象解明を行う。

#### 7.2.4 電磁気応用部門

電磁気による試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1) 渦電流探傷研究委員会

各種の渦電流探傷プローブの開発が行われ渦電流探傷技術の新展開が期待される。各種素材・構造物に対する最新の渦電流探傷技術に関する研究及び調査・検討を行う。

##### (2) 電磁応用現象・解析評価研究委員会

数値解析技術が実用的になってきている現状で渦電流探傷を科学的にかつ定量的な評価を行う。特に新たな JIS 規格に関して、標準試験片の検証を数値解析により行う。

##### (3) 渦電流プローブ・装置特性評価研究委員会

新たな JIS 規格においてプローブの評価法や装置の評価法が新しく定義されることになる。それを実践するとして問題がないか、妥当かを検討していく。

#### 7.2.5 漏れ試験部門

漏れ試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1) 漏れ試験研究委員会

各試験方法における対象漏れ量、選択方法などについて調査研究する。また、技術普及に役立つ漏れ試験方法の基礎と応用に関する書籍発行の執筆活動を進める。

#### 7.2.6 応力・ひずみ測定部門

応力・ひずみ測定による試験検査法、材料評価法に関する研究及び関連技術の調査と普及を推進する。

以下の各研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1) バイオメカニクス研究委員会

バイオメカニクスに基づいた生体機能や生体診断への非侵襲的計測技術の応用について研究や調査を行う。

#### 7.2.7 アコースティック・エミッション部門

アコースティック・エミッションの研究、調査及び普及を推進する。また、第 18 回アコースティック・エミッション総合コンファレンスを開催する。

#### 7.2.8 赤外線サーモグラフィ部門

赤外線サーモグラフィによる各種試験方法の研究、調査及び普及を推進する。また、赤外線サーモグラフィに関連した規格の整備及び認証事業を学術面から支援する。

#### 7.2.9 製造工程検査部門

製造工程検査部門は、非破壊検査画像処理特別研究委員会名を変更して、活動を新たにす。画像処理技術を核として、要素技術の応用による製造工程検査の自動化にかかる研究・調査を推進する。

#### 7.2.10 保守検査部門

保守検査に係わる各種非破壊検査方法の研究、調査及び普及を推進する。また、第 10 回保守検査シンポジウムを開催する。

#### 7.2.11 鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験部門

鉄筋コンクリート構造物に対する各種非破壊検査方法の研究、調査及び普及を推進する。また、鉄筋コンクリート及び関連分野の非破壊検査に関する国内文献の調査・整理を行う。

#### 7.2.12 新素材に関する非破壊試験部門

新素材の非破壊評価に関する研究、調査及び普及を推進する。また、新素材に関連した規格の整備を推進する。

### 7.3 研究会

#### 7.3.1 電界計測に基づく非破壊評価応用研究会

電界計測及び他の計測手法との複合や融合による新たな非破壊評価技術の開発、現場ニーズに対応した非破壊評価技術の発展・高度化、かつ電界計測手法の新たな対象への応用、ならびに産業界への普及を目指して研究、調査活動を行う。

#### 7.3.2 非線形超音波の基礎と応用に関する研究会

非線形超音波を中心に、発生機構をより定量的に検討し、実機への適用性について検証する。また必要に応じ、関連研究や講演会、文献の調査を行う。

#### 7.3.3 超音波による非接触非破壊評価研究会

レーザー超音波やその他の非接触計測技術、先進的な欠陥検査、材料評価技術に関する話題提供・討論と研究現場等の研究・調査を行う。

### 7.4 学術講演会

(1) 春季講演大会を平成 23 年 5 月 25 日、26 日にアルカディア市ヶ谷で開催する予定である。

(2) 秋季講演大会は、平成 23 年 10 月頃に兵庫県で開催する予定である。

### 7.5 シンポジウム等

(1) 第 8 回放射線による非破壊評価シンポジウム  
・平成 24 年 3 月の 2 日間、東京で開催予定である。

(2) 第 19 回超音波による非破壊評価シンポジウム  
・平成 24 年 1 月 26 日、27 日の 2 日間、東京で開催予定である。

(3) 第 15 回表面探傷シンポジウム  
・平成 24 年 3 月の 2 日間、東京で開催予定である。

(4) 第 43 回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム  
・平成 24 年 1 月 19 日、20 日の 2 日間、東京で開催予定である。

(5) 第 7 回赤外線サーモグラフィによる非破壊評価シンポジウム  
・平成 24 年 3 月の 2 日間、東京で開催予定である。

(6) 第 10 回保守検査シンポジウム  
・平成 24 年 2 月の 2 日間、東京で開催予定である。

(7) 第 14 回新素材及びその製品の非破壊評価シンポジウム  
・平成 24 年 3 月の 2 日間、つくばで開催予定である。

(8) 第 18 回アコースティック・エミッション総合コンファレンス  
・平成 23 年 9 月 26 日、27 日の 2 日間、東京で開催予定である。

### 7.6 技術開発センター

実機 SCC や模擬 SCC について、本委員会で取りまとめた知見を整理し公開していく。本年度は昨年に引き続き、溶接部に擬似 SCC を導入した試験体をさらに作製し、各種超音波法を中心に回送実験で探傷データを採取する。探傷の有効性を検証するため、一部試料は切断観察し、一連の実験終了後は、試験体を技術開発センターに置き、会員が利用できるよう運用を図る。

## 7. 7 国際学術委員会

- (1) 各国の非破壊検査関連学協会及びグループとの連携を密にし、積極的に情報を収集して、非破壊検査関連分野の動向を的確に把握する。
- (2) 友好協定を締結している各国の団体との相互交流を推進する。
- (3) 2011年10月または2012年3月開催予定のASNT年次大会へ協会代表を必要に応じて派遣し、交流と情報収集を図る。
- (4) 2011年10月にメキシコで開催予定の第5回PANNDT及びICNDT PGP会議へ協会代表を必要に応じて派遣し、交流と情報収集を図る。
- (5) 2012年秋に横浜で開催予定の「第3回レーザ超音波及び先進計測に関する国際シンポジウム(LU2012)」の準備活動を推進する。

## 7. 8 APCNDT 論文委員会

2009年11月に当協会が29年ぶりに担当となった第13回アジア・太平洋非破壊試験会議(APCNDT2009)の際に提出された英文論文(72件)の校閲等を行い、特集号の発行に向けた活動を行う。

## 7. 9 支部の学術活動

各支部において、東北支部の産学官連携研究会をはじめとする、各種の研究発表会を実施する。

### 7. 10 編集委員会

- (1) 機関誌60巻4号～61巻3号を編集・発行する。
- (2) 機関誌の更なる充実を図るための検討を行う。  
特に各号毎に特集を組むに当たっては、協会での研究活動とそれに関連した最新技術を会員に伝えるため、学術の各部門や研究会からの特集企画への参画を推進する。
- (3) 環境に配慮した機関誌作りを推進する。
- (4) 論文投稿者の便宜と論文審査の効率化を目的として電子投稿・審査システムの導入を推進する。また、それに付随して論文審査体制・過程の改善を図る。
- (5) J-Stageによる論文公開を推進する。
- (6) 英文共同刊行誌「Materials Transactions」への英文論文の投稿受付を継続する。
- (7) 機関誌による情報発信への協会ホームページの援用を推進する。

### 7. 11 他学協会との連携及び協力

関係学協会との連携を密にし、必要に応じ、共同して研究活動を行うとともに、講演会等を共催・協賛・後援する。

## 8. 教育活動

教育委員会の下で、次の活動を行う。

- (1) BOK (Body of Knowledge: 必要な一連の知識) に基づいた教育カリキュラムの見直しを行う。
- (2) 講師、指導員の育成プログラムの検討を行う。
- (3) JIS Z 2305の実技を対象とした講習会を開催する。
- (4) レベル3の基礎試験を対象とした講習会を開催する。
- (5) ボス供試体を対象とした講習会を開催する。
- (6) 非破壊検査総合管理技術者の認証のための講習会を開催する。
- (7) 参考書等の改訂及び教育関連書籍の見直しを行う。
- (8) 非破壊試験啓蒙のためのセミナーを主催するほか、外部団体からの委託による研修会を実施する。
- (9) 教育用試験片・機器等の貸出業務を行う。

- (10) 関西支部で「自主技術研修道場」を開設し、NDI技術者の技術習得自己研鑽を図る。

### 8. 1 非破壊試験技術講習会

教育訓練の国際整合性及び支部との連携を図りながら次の講習会を開催する。

- (1) 放射線透過試験 レベル1・2・3コース
- (2) 超音波探傷試験 レベル1・2・3コース
- (3) 磁粉探傷試験 レベル1・2・3コース
- (4) 浸透探傷試験 レベル1・2・3コース
- (5) 渦流探傷試験 レベル1・2・3コース
- (6) ひずみ測定 レベル1・2・3コース
- (7) 赤外線サーモグラフィ試験 レベル1コース
- (8) レベル3基礎コース
- (9) 非破壊検査総合管理技術者コース

### 8. 2 国際教育専門委員会

- (1) アジア・太平洋地域からの要請により、各種事業の計画立案及びその運営について協力・支援する。
- (2) 資格試験及び教育訓練用の欠陥付き標準試験片の製作技術については、要請に応じて、試験片製作のためのワークショップに専門家派遣を行って協力していくと共に、試験片の製作、供給に関して、協力・支援する。
- (3) IAEA主催などの各種ワークショップ及びセミナーに関しては、各国からの要請に応じて日本から専門家派遣を実施する。

## 9. 標準化活動

経済産業省、日本規格協会及び関係学協会と緊密に連携し、主として次の活動を行う。

### 9. 1 標準化委員会

- (1) 日本非破壊検査協会規格(NDIS)を制定し、検査技術の標準化を図るとともに、その普及を推進する。
- (2) JISの原案作成(制定及び見直し)に積極的に協力し、その普及を推進する。また、関連する国際規格とJISの整合化を推進する。
- (3) ISO委員会の諸活動に積極的に協力する。
- (4) 検査技術に係る標準化の在り方や方向性を調査・検討する。

### 9. 2 ISO委員会

- (1) ISO/TC 135関連の国内審議団体として、国際規格案の審議に積極的に参加し、日本の意見を反映していく。
- (2) 各SC/WG等の国際会議へ代表者を派遣する。  
本年は、4月にボルト・デ・ガリーニャス(ブラジル)にて開催予定のISO/TC135/WG9会議及び10月にカン(メキシコ)にて開催予定の各ISO/TC135/WG3会議等へ出席するために日本代表者を派遣する予定である。
- (3) 非破壊試験に関連のある国際対応においてISO/TC 44(溶接)、TC 17(鋼)及びTC 79/SC 11(チタン)等からのISO規格検討依頼等に協力をしていく。
- (4) 標準化委員会との連携を密にし、ISO規格とJIS及びNDIS規格との調整等に努める。

### 9. 3 ISO/TC 135 幹事国業務

- (1) TC 135は2009年に、それまで他のTCを含めて先例のなかったCEN(欧州標準化委員会)との合同ワーキンググループ(WG)を設立し、NDT技術者の資格と認証を定めたISO規格(ISO 9712)とCEN規格(EN 473)との完全整合化を目指している。2012年の早い時期を目処にEN ISO 9712を発行して永年の悲願を達成できるように、幹事国として全力を傾注する。

- (2) EN ISO 9712 の最終投票 (FDIS) 案を策定するため、本年 10 月に上記合同 WG の会議を開催する。
- (3) ISO 9712 と EN 473 との完全整合化についての理解と支援を求めるため、本年 6 月に開催される Certification 2011 会議に参加し、その啓蒙に努める。
- (4) 目下、ISO 9712 を正式導入する機運にある ASME に協力して、その実現を図る。
- (5) ISO/TC 135 幹事国として、TC 135 の SC 幹事国およびリエゾン先機関と緊密に連携して業務を推進する。リエゾン先の会議、並びに TC 135 の SC 及び WG 会議には TC 135 代表ができるだけ参加するようにする。本年度は、CEN/TC 138 の会議に ISO/TC 135 を代表して出席し、欧州との意見交換に努める。また SC 9 会議が本年 5 月に予定されているが、SC 9 は設立されて時間も浅く幹事国も業務に不慣れなので、TC 135 代表が参加してアドバイスをを行う。

#### 9. 4 ISO/TC 135/SC 6 幹事国業務

- (1) ISO/TC 135/SC 6 幹事国として、加盟国及びリエゾン先の他 TC と緊密に連携して漏れ試験方法関連規格の開発を推進する。
- (2) 国際規格としての漏れ試験に関する用語の制定とヘリウム漏れ試験の規格化を進める。
- (3) インド、ブラジルなど新興国からの漏れ試験規格の提案の開発を支援する。

### 10. 認証活動

#### 10. 1 認証運営委員会

- (1) JIS Z 2305:2001「非破壊試験－技術者の資格及び認証」に基づき、非破壊試験技術者の資格の審査、認証、資格証明書の発行及び登録等の認証事業を実施し、併せて、同資格の普及を図る。  
また、NDIS 0604:2009「赤外線サーモグラフィ試験－技術者の資格及び認証」に基づき、2012年春期に資格・認証制度を開始する。
- (2) 資格試験問題を統計分析等の手法を用いて検討を行う。
- (3) BOK (Body of Knowledge: 必要な知識) に整合した資格試験問題の整備を図る。
- (4) 機関誌「非破壊検査」及びホームページへ認証に関する情報を定期的に掲載する。
- (5) (社)日本エルピーガスプラント協会との相互認証を実施する。
- (6) ISO 9712:2005 への対応に伴う JIS Z 2305:2001 の見直し検討を実施する。
- (7) 実技試験会場の充実を図る。

#### 10. 2 非破壊検査総合管理技術者認証委員会

NDIS 0602:2003「非破壊検査総合管理技術者の認証」に基づき、技術者の認証を実施する。

#### 10. 3 PD 認証運営委員会

PD (Performance Demonstration) 認証制度に関して NDIS 0603:2005「超音波探傷試験システムの性能実証における技術者の資格及び認証」に基づき技術者の認証を実施する。

#### 10. 4 国際認証関連

- (1) ASNT-ACCP-PCP による ACCP 資格取得制度のサブプリメント試験を実施する。

- (2) EU の PED (Pressure Equipment Directive) に関わる BINDT との PED NDT 承認を再開実施する。
- (3) カナダ天然資源省鉱物エネルギー技術カナダセンター (CANMET) と JSNDI は、それぞれの非破壊試験技術者の相互承認を推進する。

### 10. 5 その他

新たな NDT 方法として、漏れ試験の認証制度の確立を推進する。

#### 11. 1. 出版・試験片活動

関連委員会と連携し、次の活動を行う。

##### 11. 1 出版委員会

- (1) 刊行している出版物の改訂と新版の刊行
- (2) 新出版物の検討 (入門書の頒布など)
- (3) 原稿の電子化の推進
- (4) BOK (Body of Knowledge: 必要な一連の知識) 対応書籍の発行の検討
- (5) 販売促進に関する検討
- (6) 参考書の英語版発行の検討

##### 11. 1. 1 刊行物

以下のような新版発行予定、刊行物の改訂予定及び刊行物の増刷・頒布、また委託書籍の仕入販売を引き続き行う。

- (1) 非破壊検査技術シリーズ、その他
  - (a) 改訂版予定 (書籍名は仮称) 関連規格の改正と技術の進歩に対応した改訂を行う。
    - 1) エックス線作業主任者試験  
公表問題の解答と解説 2011
    - 2) 磁粉探傷試験実技参考書
    - 3) アコースティック・エミッションによる動機軸の診断
    - 4) 赤外線サーモグラフィ試験 II
    - 5) 赤外線サーモグラフィ試験問題集
    - 6) 漏れ試験 I
    - 7) 漏れ試験 I 問題集
    - 8) 漏れ試験実技参考書 I・II
    - 9) 鉄鋼材料の磁粉及び浸透探傷試験による欠陥指示模様の参考写真集
    - 10) 超音波探傷試験 III
    - 11) 超音波探傷入門 (パソコンによる実技演習) CD-ROM 付
  - (b) 増刷・頒布
    - 1) 非破壊試験技術総論
    - 2) 非破壊試験技術者のための金属材料入門
    - 3) 非破壊試験技術者のための金属材料概論
    - 4) レベル 3 技術者のための材料科学及び認証システムに関する問題集
    - 5) 放射線透過試験 I
    - 6) 放射線透過試験 II
    - 7) 放射線透過試験 III
    - 8) 放射線透過試験問題集
    - 9) 放射線透過試験実験法
    - 10) 放射線透過試験技術に関する写真集及び解説
    - 11) 放射線安全取扱い
    - 12) エックス線作業主任者試験  
公表問題の解答と解説
    - 13) エックス線作業主任者用テキスト
    - 14) 超音波探傷試験 I

- 15) 超音波探傷試験Ⅱ
  - 16) 超音波探傷試験Ⅲ
  - 17) 超音波厚さ測定Ⅰ
  - 18) 超音波探傷試験問題集
  - 19) 超音波探傷試験実技参考書  
「デジタル超音波探傷器」編
  - 20) 各種成品及び溶接構造物の超音波探傷試験
  - 21) 鉄骨溶接部の超音波探傷試験実施マニュアル
  - 22) 磁粉探傷試験Ⅰ
  - 23) 磁粉探傷試験Ⅱ
  - 24) 磁粉探傷試験Ⅲ
  - 25) 磁粉探傷試験問題集
  - 26) 磁粉探傷試験実技参考書
  - 27) 鉄鋼材料の磁粉及び浸透探傷試験による  
欠陥指示模様の参考写真集
  - 28) 浸透探傷試験Ⅰ
  - 29) 浸透探傷試験Ⅱ
  - 30) 浸透探傷試験Ⅲ
  - 31) 浸透探傷試験問題集
  - 32) 浸透探傷試験実技参考書
  - 33) 渦電流探傷試験Ⅰ
  - 34) 渦電流探傷試験Ⅱ
  - 35) 渦電流探傷試験Ⅲ
  - 36) 渦電流探傷試験問題集
  - 37) 渦電流探傷試験実技参考書
  - 38) ひずみ測定Ⅰ
  - 39) ひずみ測定Ⅱ
  - 40) ひずみ測定Ⅲ
  - 41) ひずみ測定問題集
  - 42) アコースティック・エミッション試験Ⅰ
  - 43) アコースティック・エミッション試験Ⅱ
  - 44) 中性子ラジオグラフィ写真集
  - 45) 非破壊評価工学
  - 46) イラストで学ぶ非破壊試験入門
  - 47) 叢書「非破壊検査の最前線」
  - 48) 非破壊検査やさしい解説 Vol. 1
  - 49) 超音波探傷入門(パソコンによる実技演習)CD-ROM付
  - 50) 赤外線サーモグラフィによる設備診断  
・非破壊評価ハンドブック
  - 51) 赤外線サーモグラフィ試験Ⅰ
- (2) 学術講演大会講演概要集  
(◎：新版予定 ○：22年度発行新版)
- 1) ◎平成23年度春季大会講演概要集
  - 2) ◎平成23年度秋季大会講演概要集
  - 3) ○平成22年度春季大会講演概要集
  - 4) ○平成22年度秋季大会講演概要集
  - 5) 平成21年度春季大会講演概要集
  - 6) 平成20年度秋季大会講演概要集
  - 7) 平成20年度春季大会講演概要集
- (3) 日本非破壊検査協会規格 (NDIS)
- (4) JISハンドブック「非破壊検査」
- (5) JIS Z 2305:2001「非破壊試験  
－技術者の資格及び認証」
- (6) DVD「非破壊検査入門」
- ## 11. 2 試験片委員会
- (1) 新規試験片の頒布検討
- (2) 頒布品のカタログの作成検討
- (3) 信頼性証明書に関する検討
- (4) 販売促進に関する検討
- ### 11. 2. 1 頒布品
- 次の試験片(又はゲージ)などの頒布を行うとともに必要に応じて新たに製作し頒布する。
- (1) 放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ
- 1) 鋼溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ (準拠規格 JIS Z 3104)
  - 2) アルミニウム溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ (準拠規格 JIS Z 3105)
  - 3) 鋳鋼品放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ (準拠規格 JIS G 0581)
- (2) 超音波探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2345)
- 1) G形STB
  - 2) N1形STB
  - 3) A1形STB
  - 4) A2形系STB
  - 5) A3形系STB
- (3) 超音波厚さ計用対比試験片 (準拠規格 JIS Z 2355)
- 1) RB-T
- (4) 磁粉探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2320)
- 1) A1形標準試験片
  - 2) A2形標準試験片
  - 3) C1形標準試験片
- (5) 浸透探傷試験教育用アルミニウム焼割れ試験片
- (6) 発泡液試験片 (準拠規格 JIS Z 2329)
- 1) BL-30/100
- (7) 浸透探傷試験及び磁粉探傷試験の目視観察条件の目視基準ゲージ(準拠規格 JIS Z 2340)
- 1) 染色(赤色)浸透探傷試験用
  - 2) 黒色磁粉探傷試験用
  - 3) 蛍光浸透探傷試験・蛍光磁粉探傷試験用
- ### 11. 2. 2 信頼性証明書の発行
- (1) 超音波探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2345)
- (2) 超音波厚さ計用対比試験片 (準拠規格 JIS Z 2355)
- (3) 磁粉探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2320)
- (4) 発泡液試験片 (準拠規格 JIS Z 2329)
- ## 12. 広報活動
- (1) イメージキャラクターの「ノンディ」等を幅広く広報媒体に活用し、「非破壊検査」の普及と存在意義の浸透を図る。
- (2) 次世代を担う若年層の非破壊検査に関する興味・関心を喚起するための広報活動を企画し実行する。
- (3) 協会案内の企画・製作を行う。
- (4) 和文及び英文ホームページの内容について更なる充実化を図る。

- (5) 電子メールを活用した情報発信（メールマガジン）サービスの利用者登録数を増やすとともに、多くの会員に協会の最新情報を速やかに発信することを促進する。
- (6) 公開文献（会員の特典としての文献公開）を随時、web上で公開することに努める。
- (7) 各種マスメディアへのPR活動を積極的に行う。
- (8) 機関誌編集委員会及び認証広報委員会との情報の相互連絡体制をより強化し、会員の要望に沿った情報の公開を行う。
- (9) 各種展示会への出展を積極的に行う。
- (10) 支部主催による「ノンディの世界」イベントを実施し、非破壊検査の啓蒙を図る。

### **1 3. 名誉会員の推戴**

名誉会員の選考及び推戴を行う。

### **1 4. 表 彰**

- 14.1 日本非破壊検査協会賞規則に基づく協会賞の選考及び表彰を行う。
- 14.2 日本非破壊検査協会業績賞規則に基づく業績賞の選考及び表彰を行う。
- 14.3 日本非破壊検査協会論文賞規則に基づく論文賞の選考及び表彰を行う。
- 14.4 日本非破壊検査協会奨励賞規則に基づく奨励賞の選考及び表彰を行う。
- 14.5 日本非破壊検査協会新進賞規則に基づく新進賞の選考及び表彰を行う。
- 14.6 日本非破壊検査協会技術表彰規則に基づく石井賞の選考及び表彰を行う。

### **1 5. 研究奨励・研究助成**

- 15.1 日本非破壊検査協会研究奨励金制度規則に基づく奨励金の給付を行う。
- 15.2 日本非破壊検査協会研究助成事業規則に基づく助成金の給付を行う。